

中海・宍道湖圏域道路整備勉強会

設 立 趣 意 書

中海・宍道湖圏域は、日本海側の主要都市圏である、新潟、金沢、福井に次ぐ約60万人の人口が集積しており、製造業をはじめとした各種産業の集積地として、鳥取県及び島根県の発展を牽引し、環日本海諸国・アジア諸国などとの交流や地方創生をリードする地域である。

また、出雲大社や水木しげるロードなど数多くの文化資源、観光資源に恵まれているとともに、境港への大型クルーズ船の寄港などによるインバウンドを含めた圏域として観光入り込み客や交流人口の増大が期待される地域である。

しかしながら、中海・宍道湖圏域の道路交通は、商業施設や物流施設などが集中している市街地を中心に交通が集中し、慢性的な交通混雑や交通事故が発生している。そして、高速道路や港湾・空港などの交通拠点へのアクセス性が低いなどの課題により、経済活動や観光振興に対する広域交流の機能が果たせていない状況となっている。

また、近年では、自然災害が激甚・頻発化しており、中国地方でも平成30年7月豪雨による甚大な被害が発生した。令和2年度には、九州地方を中心に豪雨が発生するなど、全国各地で地震、豪雨、雪害などの自然災害が多発しており、災害からの迅速な復旧と、早期の日常生活・経済活動の再開を見据え、被災後もすぐに機能する道路ネットワークの整備が求められている。

このような背景から、中海・宍道湖圏域における各地域の発展を目指して、中海・宍道湖圏域にとって真に必要な将来の道路ネットワークのあり方について、あらゆる角度から幅広い検討を行うため「中海・宍道湖圏域道路整備勉強会」を設立するものである。